1985年5月25日第三種郵便物認可　2013年1月1日発行（毎月1回1日発行）通巻519号

福祉のひろば

1
2013

特集 2013年 憲法とともに 福祉現場で生きる

2013年スタート！　福祉現場で働く若手職員の
意気込みあふれるメッセージ

［座談会］2012年を振り返り、2013年に向けて
生田　武志・杉山　隆一・石川　康宏

ひろばトーク
大阪母親大会連絡会委員長　植田（うえだ）　晃子（あきこ）さん

核と人類は共存できない――「生命を生みだす母親は　生命を育て
生命を守ることをのぞみます」

編集　総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒　604－8083
京都市中京区三条柳馬場東入中之町１０
代表取締役社長　　川下　晃正
TEL　（075）211－7277
FAX　（075）211－7270
http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382
京都市南区吉祥院石原上川原町21
http://www.creates-k.co.jp

クリエイツかもがわ

TEL 075（661）5741
FAX 075（693）6605
価格税込・送料何冊でも240円

◉認知症当事者を豊かに知り、深く学べるガイドブック誕生！

認知症の本人が語るということ
扉を開く人
クリスティーン・ブライデン

認知症の常識を変えたクリスティーン。多くの人に感銘を与えた言葉の数々、続く当事者発信の展開と医療、ケアのチャレンジが始まった……。そして、彼女自身が語る今、そして未来へのメッセージ！

永田久美子（認知症介護研究・研修センター）◆監修
NPO法人認知症当事者の会◆編著

◉認知症とともに生きる私の物語

私は私になっていく
認知症とダンスを
改訂新版
クリスティーン・ブライデン◆著
馬籠久美子・桧垣陽子◆訳

訳を全文見直し

認知症を生きる人たちから見た
地域包括ケア
たちまち増刷！
京都式認知症ケアを考えるつどいと2012京都文書
「京都式認知症ケアを考えるつどい」実行委員会◆編著

認知症医療・ケアの現在と道筋をデッサンし、認知症を生きる人から見た地域包括ケアを言語化する試み。

定価１８９０円

定価各2100円

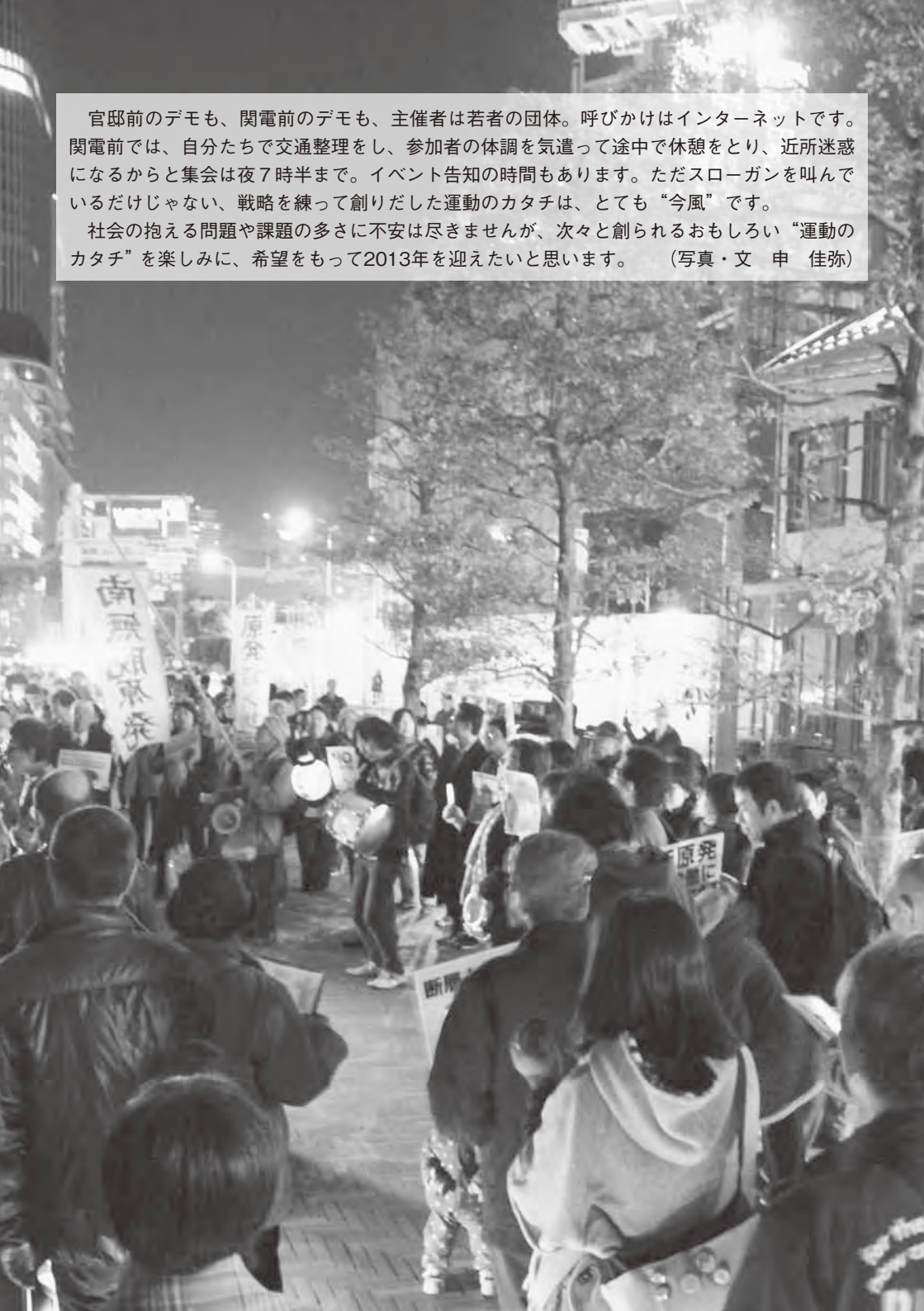
“おかしい”と言うことが大切

保育士の名畑（なばた） 綾（あや）さん（21歳）。2012年11月２日、関西電力羽曳野（はびきの）営業所前で行われた「原発ゼロはみんなの願い　11・２南河内大集会・パレード」に参加し、「原発によるエネルギーでは、子どもたちは守れません。私は働きはじめてまだ２年目の新人ですが、おかしいことはおかしいと声をあげる必要があることに気づきはじめたところです！」と、約400人の前で反原発を訴えました。

名畑さん（左）は、全国福祉保育労働組合大阪地方本部コロニー事業団分会の組合員で、日本民主青年同盟の河南（かなん）地区代表としても忙しい毎日を送っています。

子どもが大好きで、保育士になるため短大に通っていた頃に、友だちの影響で社会活動に参加しはじめました。それまでまったく縁がありませんでしたが、それ以来、さまざまな活動をしています。〈集会にて〉

「活動の魅力は？」と問いかけると、「『なんでやろう？』とか『それおかしくない？』と思っていても、声に出す機会のない若者が多いと思います。友だち同士でもそういうところはお互いに突っ込まないというか、タブーになっているような感じですよね。私は、学生のときに、社会のことやおかしいと思うことを真剣に話し合える場や仲間に出会いました。それがとてもうれしかったです。マジメな話ばかりじゃなくて一緒に遊んでバカなこともするし、活動は私の大切な居場所です」と答えてくれました。〈職場で働いているところ〉



官邸前のデモも、関電前のデモも、主催者は若者の団体。呼びかけはインターネットです。関電前では、自分たちで交通整理をし、参加者の体調を気遣って途中で休憩をとり、近所迷惑になるからと集会は夜７時半まで。イベント告知の時間もあります。ただスローガンを叫んでいるだけじゃない、戦略を練って創りだした運動のカタチは、とても“今風”です。

社会の抱える問題や課題の多さに不安は尽きませんが、次々と創られるおもしろい“運動のカタチ”を楽しみに、希望をもって2013年を迎えたいと思います。　（写真・文　申　佳弥）

福祉のひろば
2013年1月号

【ひろばトーク】
核と人類は共存できない――「生命を生みだす母親は
　生命を育て　生命を守ることをのぞみます」　植田　晃子　6

●特集●　2013年　憲法とともに福祉現場で生きる
2013年スタート！　福祉現場で働く若手職員の
　意気込みあふれるメッセージ　10
山口　碧・稲葉　祐希・小寺　友子・西田　友美
竹村　渉・飯塚　智美・大塚　佳奈・佐治　宏実
秋田　早希・大谷　一平・植月　健司・西川　剛
〈座談会〉2012年を振り返り、2013年に向けて　22
生田　武志・杉山　隆一・石川　康宏
福田　志朗・植田美奈子・井上　友民

●トピックス●
新年にあたって　「福祉のひろば」編集人　石倉　康次　39
総合社会福祉研究所　2013年の主な予定　40

●連載●
フォーラム
　がんばれ！　高齢者たち　上坪　陽　48
ひとつのこと―社会福祉労働と私たちの実践
　ピンポーンで始まる安心　城東老人ホーム　50
連載　小川政亮　第二部　自伝（10）
　牧野訴訟――老齢福祉年金夫婦受給制限　小川　政亮　52
相談室の窓から
　否定・禁止・強制ではなく　青木　道忠　56
わらじ医者　早川一光の「よろず診療所日誌」
　不思議、ふしぎ、人間のつくり（その13）　早川　一光　58
育つ風景　今、福島の子どもたちとおとなたちは　清水　玲子　60
穂波のアメリカ子育て事情
　WIC（低所得者層向け食料配給制度）を体験して　吉田　穂波　62
映画案内　『拝啓、愛しています』　吉村　英夫　64
現代の貧困を訪ねて
　われわれは衆議院選でどのような社会を選ぶのか　生田　武志　66
施設訪問ボランティア
　この街から　こーちゃんとほっこりシスターズ　草田満喜子　68
私の研究ノート
　就学猶予・免除障害者の教育権保障　河合　隆平　70
ホームレスから日本を見れば　ありむら潜　72
花咲け！男やもめ　川口モトコ　74

みんなのポスト　46／今月の本棚　73／
しりとりであそぼう！＆憲法クイズ　75／福祉の動き　76
●グラビア●　〝おかしい〟と言うことが大切

●表紙の絵と写真●
絵＝神門やす子
写真＝下野祇園

●カット●
川本　浩

ひろば トーク

核と人類は共存できない

「生命を生みだす母親は 生命を育て　生命を守ることをのぞみます」

大阪母親大会連絡会委員長　植田（うえだ）　晃子（あきこ）さん

マグロを求めて航行していた日本の漁船「第五福竜丸」は、一九五四年二月二七日、マーシャル諸島の海でついにマグロの群れに遭遇しました。乗組員たちは連日、寝る間もなくマグロを釣りあげ、さあ日本へ帰ろうとした三月一日の夜明け前、突然、西の空が真っ赤に燃えました。

「第五福竜丸」がいた海から一五〇カイリ離れたビキニ環礁で行われた、アメリカの水爆実験です。広島原発の一〇〇〇倍の威力の核爆発の様（さま）を、アメリカの絵本作家ベン・シャーンは絵本『ここが家だ』に、恐ろしい魔物があばれる絵で表現しました。詩人のアーサー・ビナードさんは「西の空の／火の玉は／雲よりも／高く／あがっていた。（中略）にせものの／太陽みたいな／ばけものが／うようよ／もくもくと／もがいているのだ」と書きました。

その八分後、爆発音が響きわたりました。マーシャル諸島に住む人々や、そのとき付近の海にいた多数の漁船の被害は計り知れません。「第五福竜丸」の乗組員は、次々と体調を悪くしながらも、助けをあえて求めず日本をめざし、ようやく三月一四日、焼津港にたどり着きました。やがて、毛が抜ける、皮膚に斑点が出るなど原爆症といわれる症状が現れはじめました。そして九月二三日、無線長だった久保山愛吉（くぼやまあいきち）さんが亡くなりました。

日本国中で原水爆禁止運動がいっきに広がりました。子どもに何を食べさせればいいのかと、母親たちが最初に立ち上がったといわれています。母親たちが始めた署名運動は燎（りょう）原（げん）の火の如く日本中に広がって、今日の原水爆禁止運動の基礎をつくったのでした。

うえだ　あきこ
子育てしながら働き続ける中で、保育所、学童保育づくりなど大阪の保育運動に参加。黒田革新府政の実現には、女性連絡会を立ち上げて奮闘。1975年、業者婦人の全国組織である全国商工団体連合会婦人部協議会の結成にかかわり、続いて大阪商工団体連合会婦人部協議会を結成、初代事務局長。1994年、大阪母親大会連絡会事務局長、現在、委員長。

この時、日本の女性たちは「核戦争から子どもを守ろう」と世界中の女性たちに呼びかけ、「世界母親大会」を開くことに成功しました。一九五五年七月のことです。スイス・ローザンヌに六八か国から一〇六〇人が集まりました。「生命を生みだす母親は　生命を育て生命を守ることをのぞみます」――このスローガンはここで生まれました。

そして、このスローガンのもと、五八年にわたって日本の母親運動は草の根の運動として根づいてきました。今ではすべての都道府県で、さらには市区町村で、母親大会が開かれています。子育て、教育、働き方、くらし、医療、介護、年金、老後、平和と米軍基地、そして男女平等など、母親・女性がかかえるあらゆる問題が毎年話し合われ、一致した要求を持って政府省庁に要請しています。

二〇一二年の日本母親大会要請行動に私も参加し、大阪母親大会連絡会が取り組んできた「放射能からこどもを守りましょう署名」二万筆を内閣総理大臣に届けました。そして大阪府への要請行動も行い、憲法違反、民主主義に背を向けた教育基本条例や職員基本条例は許せないという母親たちの声をしっかり伝えました。引き続き、子どもたち、未来の人たちに核戦争のない世界を、原発ゼロの社会を手渡そうと決意を新たにしています。

日本中で原発ゼロを求める新しい運動が起こっています。「核と人類は共存できない」「未来の人たちに恐ろしいものは手渡せない」「原発再稼働許さない」。二〇一三年も、私たち母親・女性は、子どもと未来の人たちに人間らしく生きられる社会を手渡したいという願いや思いをさまざまな人々に幅広く呼びかけながら、頑張っていきたいと思います。

特　集

2013年
憲法とともに
福祉現場で生きる

今号の発刊が総選挙投票日後のため、編集日程上、選挙の結果がわからない中での文章であることを最初にお断りします。

二〇一二年を振り返るときに、社会保障・税一体改革の関連法の成立・施行を抜きに語れません。二〇〇九年の総選挙で、当時最大野党だった民主党は、構造改革に苦しむ国民の切望につけ込み、構造改革の転換を掲げ、それを国民への公約として政権をとりました。しかし、その公約も束の間のこと、民主党は、国民の力で政権がとれたことなど忘却の彼方に葬り、財界とアメリカの顔を伺う仮面にすり替えました。自民党・公明党と一緒に、財界が要求する構造改革の集大成に邁進（まいしん）し、消費税増税と社会保障を消費税の鉄枠に押し込める公約違反を、国民に信を問わずに強行を図ったのです。

旧来の自民党型ではたたかえない、と出現した政党の存在は、構造改革路線に苦しむ国民のまなざしをそらすものなのか、権力の一時退避機能に見えて